

ともしえ



CONTENTS

巻頭特集 観光都市函館 より魅力ある街へ

- ◆ 税務相談ご案内..... P14
- ◆ 新春紙上名刺交換..... P16
- ◆ 各種検定試験・講習会ご案内..... P26

Consulate Bridal

宗教によらない自由な形の結婚式です。
函館市旧イギリス領事館で交わす
調印式をイメージするお二人の将来を約束する誓いは、
きっとドラマチックな思い出となることでしょう。



おふたりにいちばん近い方々に囲まれながら、領事館を訪れる方々の賑わいのなかで、出発を祝うコンサレートウェディング。

外国旅行での経験や映画のシーンを思い出すチョットおしゃれなウェディングセレモニーです。



挙式の後のご会食は館内レストランで…。



ガーデンでの挙式 (5月~10月上旬)
館内での挙式 (10月~12月、1月~4月)
コンサレートウェディングプラン
¥150,000(税込)
(挙式料・衣裳・美容・着付・写真)

領事館結婚式

函館市旧イギリス領事館

Old British Consulate of Hakodate

函館市元町33番14号

TEL.0138 (27) 8169 (ブライダル直通)

ともえ

1月号
(通巻302号)

新春年頭所感

2 函館商工会議所会頭 高野 洋藏

新春特集

4 観光都市函館 より魅力ある街へ

会議所の動き

第2回臨時議員総会
部会報告

陳情・要望活動

韓国観光客誘致訪問

ハコダデジタルVol.4

全道商工会議所常議員会・臨時会員総会

はこだてイカマイスター認定制度創設

2007年全国そばんコンクール

地域振興フォーラム

女性会・青年部活動

8

中小企業相談所だより

税務相談ご案内

各種セミナーご案内

各種専門相談ご案内

14

新春紙上名刺交換

16

優良商工従業員表彰式

受表彰者一覧

24

1月・2月スケジュール・おしらせ

各種検定試験ご案内

各種講習会・セミナーご案内

26

ご紹介

会員異動のお知らせ

28

街の元気・情報交差点

2008はこだて冬フェスティバルご案内

29

コンベンション情報

観光コンベンション情報

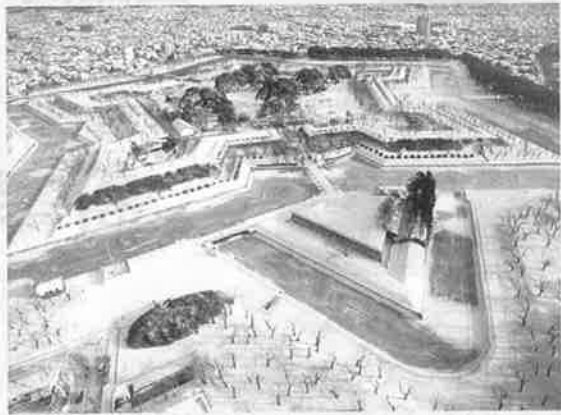
30

◆今月の表紙

雪化粧の五稜郭。

今年も2月29日まで五稜星の夢イルミネーションが開催されています。

(写真提供：小松 英海 氏)



謹賀新年

旧年中は格別のお引立てを賜り
まして心から御礼申し上げます。
本年も会員皆様にとって、良い年で
ありますよう心からお祈り申し上げます。



年頭所感



函館商工会議所

会頭

高野 洋 藏

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には健やかで輝かしい新年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

地域経済を取り巻く環境は依然として厳しく、予断を許さない状況が続いておりますが、私は昨年11月の会頭就任の際、函館商工会議所の目指すべき方向として、大きな柱を4本掲げましたが、年頭にあたりまして改めまして申し述べます。

1. 北海道新幹線の新函館までの早期開業と高速交通体系の整備
2. 中心市街地活性化の推進
3. 基幹産業である観光の一層の推進
4. 小規模企業対策の推進

まず一点目の北海道新幹線関係であります。昨年末、平成20年度の北海道新幹線の工事費178億円が内示されました。全体の工事費4,700億円のなかでは178億円を含めましても予算進捗率は8%にとどまっており、平成22年の開業に向け最終段階に入っております東北、九州新幹線のことを考えますと、止む得ないものと考えております。

今後も、平成27年度の新函館までの一日も早い開業と札幌までの延伸決定のため、官民一体となり、地域をあげて諸活動を展開していかなければならないものと思っております。

一方、北海道新幹線の整備と並び、地域にとりまして重要なのは高速交通体系の整備であります。北海道縦貫自動車道の整備はもとより、新幹線新函館開業時に新外環状線が、時を同じくしての全面開通を願っているところであります。

港湾関係では昨年9月、東日本フェリー(株)が函館—青森間に世界最大級の双胴型高速フェリーを就航させ、大きな話題をよびました。今年4月末には2隻目が就航予定であり、これに合わせて整備が遅れていました青森側ターミナルも完成予定であります。

文字どおり津軽海峡を結ぶ重要な足となり、観光面での期待も大きくふくらんでおります。また、将来的には大型観光客船が市の中心部に接岸できる埠頭の整備が必要であり、関係機関への強いはたらきかけが重要と思っております。

二点目は中心市街地活性化への具体的な取り組みであります。近年、函館市内におきまして郊外型大型店、専門店の相次ぐ出店により、既存商店街は衰退しております。特に駅前大門地区は往時の賑わいはなく、空店舗、空地が目立っております。国が中心市街地に商業や都市機能を集約した効率的でコンパクトな街づくりを目指し、街づくり3法を大幅に改正したところであります。函館市におきましても、早期に中心市街地の活性化に取り組む必要を強く感じているところであります。

三点目は基幹産業であります観光の一層の振興であります。観光客入込数が500万人割れが続き、函館空港の乗降客数も就航便数の減少や機材の小型化等により年間200万人を割り込むのは避けられないものと思われまます。

比較的安定した状態の台湾からのチャーター便の定期便化や、観光客のウェイトの高い国内便の路線新設や増便の働きかけを強め、500万人台復活の早期実現を目指したいと考えております。そのためには、これまでの函館山からの夜景や西部地区の景観に頼るだけではなく、道南地区近郊の観光地を含む広域型・体験型の観光ルートを開発し、滞在型観光へ飛躍することが必要であります。また、今年は7月に洞爺湖サミットが開催されますので、北海道を代表する観光地函館を大いにPRし、観光振興に結びつけることも重要と考えております。

四点目は情報力や資金面で、脆弱な体質にある小規模企業の経営力向上のための支援を強力に推し進めることとあります。具体的にはマル経資金のさらなる活用や、商工会議所独自の制度として創設し最近利用率が高まりつつある新規開業者向け利子補給制度の一層のPRのほか、各種セミナーの企画実施も重要と考えております。

これらは、従来から会員の大部分を占める、中小企業対策に位置づけ取組んでまいりましたが、さらに充実させたいと考えております。

平成20年も、まだまだ厳しい状況が続くものと予想されますが、商工会議所は正副会頭はもとより議員、役職員一体となって地域経済の活性化、会員企業の経営安定のため、一層努力しなければならないものと気を引き締めており、以上の4項目を活動の柱として取組んでいきたいと考えております。

皆様方の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

新春特集

観光都市函館 より魅力ある街へ!



昨年11月1日から新体制での再スタートとなった本所では、総合交通ネットワークの整備推進、中心市街地活性化への具体的な取り組み、地域基幹産業である観光の一層の振興、小規模企業への経営力向上のための支援等を中心に、これまで以上に強力に推進していくこととしています。

特に北海道新幹線や北海道縦貫自動車道等の基本的なインフラの早期整備と、その効果を最大限に発揮するための地域の魅力づくり、とりわけ観光産業の振興については改めて最重要課題に位置付け、取り組んでいきたいと考えています。

本号では、観光都市函館の今後の課題と、函館がより魅力ある街へと飛躍するための方策等について、各界のご意見を伺いました。



日本銀行函館支店長
服部 誠弘氏

東名阪での暮らしを経験してきた私が函館に赴任して最も感動したのは5～6月の快適な天候です。日が長く爽やかな夕暮れ時の元町界限そぞろ歩きは最高の贅沢です。東名阪等で働く人達には、この時期にもっと函館を訪れて欲しいものだと思います。

ところで、観光振興策を考える上での一つのポイントは、観光客のニーズの多様化です。市街地のホテルに素泊りし大門や本町を食べ歩く団塊おやじ、知る人ぞ知る道南の穴場をレンタカーで回る台湾人等、当地を訪れる観光客の属性とニーズは多様化しています。

他方、東京では、北京や上海からの中国人客が大型バスで銀座に乗り付け、高級ブランド品を買い回っている由、アジア勢の観光ニーズは経済成長とともに変化しています。

当地の観光関連業者としては、観光客の旅行ニーズの変化に合わせて商品やサービスを進化させ、全体としての多様性を確保することが肝心です。しばし

ば言われる広域観光や体験型観光の開拓は、こうした対応の一環と言えます。

中小企業であっても、数多くの事業者が、想像力を働かせながら、強みを活かして事業の質の向上を図り、新たな分野を少しずつ開拓すれば、函館としての対応は進みます。どのサービスはどの会社が提供、といった情報が判り易く鳥瞰図的に整理され公示されていれば、ウェブサイト等を見て旅行計画を立てる観光客にも不便はありません。

また、できるだけ多くの事業者や市民が情熱をもって観光振興に参画することも重要です。そのために、市役所はじめ官民のリーダーには、観光施策や街のあり方に関して現実に立脚した一貫性ある将来ビジョンを提示し続けること、事業者や市民の自主的な取組みを促進・支援する枠組みを提供することが期待されます。



道南高速交通ネットワーク推進連絡協議会
代表幹事 折谷 泉氏

私達の住む函館圏は古くは縄文時代から海峡を越えて地域の暮らしや文化を育んできました。北前船、開港、箱館戦争等、北の大地に夢をかけた人々、先取の精神、志、気概に満ちあふれていた時代、世界の宗教、文化、技術を入れ、しかも和の心を失わず“和魂洋才”の独自の文化や街を形成して参りました。

私達は、「地域の資源を活かし、地域力を高めることが、ひいては元気な日本の創造につながる」との思いから、とりわけ「総合高速交通ネットワークの整備実現」について、大きな課題として捉え、勉強会、フォーラム、中央要望活動等を行って来ました。

現在、新幹線、道路網を始め陸海空の高速ネットワーク化へ向けた整備が進められ、その活用策等の検討も始まっています。

新幹線開業による海峡新時代の到来を見据え、知恵と工夫を凝らし、例えば、多様な交通手段を組み合わせる「4つの半島に囲まれた大きくて魅力的な陸水域の再発見」と、更なる海峡交流の活性化に取り組むべきだと思います。

函館にとどまらず道南圏全体の連携に向け、今、当地域ではシーニックバイウェイ北海道（道をぎっかけに地域住民と行政が連携し、美しい北海道づくりを目指すとりくみ）の中で、指定ルートを受け、地域の人が汗を流し魅力を高めて行こうと動き始めています。

これからの10年、函館圏を巡る陸海空の交通ネットワークは、劇的に変わろうとしています。また、開港150周年を迎えるタイミングで函館国際水産海洋都市構想の実現や、市中心部に接岸出来る大型観光客船埠頭整備等もアピールしてはどうでしょうか。

私達も力を合わせて一層の観光、産業、文化の振興と函館圏の繁栄を願い努力して参りたいと思います。



函館に移住
弘田さんご夫妻

私達は5年前に函館に越してきましたが、函館は以前にも仕事の関係で2年ほど住んだことがありました。

定年を期に、これからの時間を夫婦で楽しく過ごしたいと思い、自然があり、空気や水が美味しい地域で暮らすことを考えました。地域を限定し、以前にも住んだことのある東京、長崎、広島、さらに実家のある高知、そして函館が候補として浮かびました。

そのなかでも、函館が2年間の生活経験から、自分達にこれからの生活を最も充実させてくれる土地であると確信し、函館に決めました。

実際、移り住んでみて改めて素晴らしい街だなと思いました。函館山からの景色はもちろん、ちょっと足を運べば素晴らしい自然があり、歴史を感じることでできる建造物が建ち並び、更に食べ物がすごく美味しいというのも魅力。こんな素材が揃っている街はそうはないと思います。

北海道での生活の難点は冬ですが、幸い私達夫婦の一番の趣味がスキーということは幸運です。また、夏の期間は気持ちのいい環境でゴルフを楽しみ、四季折々の季節を肌で感じるができるのもいいですし、その帰りに温泉へ寄って疲れを癒すことができるのも函館ならではの楽しみです。

街の景観の良さは言うまでもありませんが、函館に住む人達が“我が街”に愛着を持ちながら、もっといい街にしようといろいろな活動を行っている活発な街で、私達もぜひ参加したいと思います。

さらに、私達はもともと自然とふれあうことが好きで、お気に入りには四季の杜公園を散歩したり、函館山を登ったりすることです。自然はその季節になるといろんな表情をしてくれます。

嬉しいことに、孫も函館が大好きで、都会ではできないことが函館では体験できるので、毎年喜んで遊びに来てくれます。いろんなことを体験し経験できるこの街こそが、魅力のある街ではないでしょうか。今は毎日が充実し、夫婦揃って函館を満喫しています。

今後は、観光都市として、夜景・西部地区の景観等はもちろん素晴らしいですが、最近では戸井マグロやガゴメ昆布等の新函館ブランドを生かしながら、全国へ情報発信していけばもっと多くの人達が函館を訪れると思います。そのほかにも、大沼公園をはじめ市内周辺には集客できる魅力ある観光スポットがたくさんあります。これらを生かしつつ周辺地域を巻き込んだ観光ルートを形成していけばさらに観光の幅が広がり、2泊、3泊といった滞在型の観光客が増えてくるのではないのでしょうか。



(株) トライワッカ北海道
代表取締役 茂呂 信哉 氏

今年4月始めから、ベロタクシーという自転車タクシーで観光客の方に函館を観光していただくビジネスを起業することとなりました。私は千葉県成田市の生まれで、北海道大学水産学部のキャンパス移行をきっかけに函館に来ました。

函館の魅力は何といっても函館に住む人々のあたたかさ、そして市民が少しずつ作り上げてきた歴史的街並みだと思います。こういった函館の持つ観光資源を有効利用し経済面で街が活性化する「持続可能な観光」の仕組みづくりが肝要だと考えます。私は特に函館の西部地区でベロタクシーを走らせることで函館を活性化するお手伝いできればと考えています。

さて「地域が活性化している」とはどのような状態を指すのでしょうか？

私は、函館市をひとつの国とするならば、海外も含むほかの街から「外貨」を稼ぎ、地域にヒトとカネが集まる状態だと考えています。函館市には世界に誇れる素晴らしい観光資源があり、これを有効に活かすべきです。観光客が「函館でお金を使いたくなるような観光資源の見せ方」を街全体として戦略を組むことで、結果として観光が盛り上がります。地域が活性化することにつながると私は考えます。

では、観光で街が潤えばだれが一番得をするのでしょうか。私を含む観光をメインにしている産業が潤います。ですが、それだけではありません。そこには「人」が集まるわけです。人が集まれば、私みたいな新しい事業を始めようとする挑戦者も生まれるかもしれません。私が思うに、このまちのもうひとつの最大の財産は函館市を基盤とする古くから続く産業であると考えます。

水産業・運送業・製造業・建設業をはじめ函館の基盤となっている産業に再びスポットがあたれば、より大きなビジネスチャンスが生まれ、若者が新たな産業を創造できれば函館は非常にこれからおもしろくなるな、と感じています。

ただ、少し残念なのは、この函館の観光資源を適切に活かせる人材が不足していると考えています。私自身が函館における観光のパイオニアになりたいと考えております。また、私の志に共感していただければ、函館の観光産業活性化によりいっそう加速していきたく思います。



函館市商工観光部長
桜井健治氏

観光客の旅行形態が、それまでの団体型から小グループや個人型へと変化し、物見遊山から体験型や滞在型へと移行してきました。最早、函館山の夜景オンリーワンでは、滞在日数を伸ばすことが出来ません。周辺市町との連携による広域観光の強化が不可欠になってきているといっよよいでしょう。

函館を要にして、松前～江差と恵山～大沼を結ぶ広域観光ルート「エイトライン」は、既に死語になったのかも知れません。しかし道南地域には、歴史や味の深い資源が山積しておりますので、共通テーマや物語性を持たせた広域観光ルートとしてよみがえらせることが是非とも必要であると考えます。

そこで、素材活用という視点から特化した事例を考えてみました。例えば「箱館戦争の舞台を巡る旅」と題するコース設定です。渡島は、森町鷺ノ木の榎本武揚上陸地記念碑から函館まで、檜山は乙部町の政府軍部隊上陸の地から函館まで。これは道南各市町の係わりが深い共通テーマとして興味深い商品化が図れそうです。

「函館（道南）に行って世界の宗教を巡ろう」も面白い試みかも知れません。函館市内の名さつ、教会、北斗市を含む男女修道院、福島町のエゾキリシタン殉教の地、松前町の松前藩主墓碑のある法幢寺、道内最古の建築物のひとつ江差町の法華寺等を組み合わせ、これに何かストーリー性を持たせることが出来れば、興味深いコース設定になりましょう。

さらには、映画や文学の舞台などなど、活用出来そうな素材がたくさんありそうです。これまでのように、観光パンフレットにどこに何がありますという紹介だけをするのではなく、共通テーマ、物語性を付加することによって、広域観光としての魅力向上が図られるに違いないと私は考えます。



